

1 以下の問いにて答えよ。

設問(1 i) と(2 i) は、結果のみを解答せよ。設問(1 ii) と(2 ii) は、途中の式、考え方も記述せよ。

(1) 30人の学生がテストを受け、2人が満点を取ったとする。この30人から n 人を選んだとき、満点を取った学生が含まれている確率を $P(n)$ とする。ただし、 n は28人以下の自然数とする。

i) $P(5)$ を求めよ。

ii) $P(n) \geq \frac{1}{2}$ を満たすような n のうち最小のものを求めよ。

(2) 複素数平面上に3点 $A(1+2i)$ 、 $B(5)$ 、 $C(z)$ がある。ただし、 i は虚数単位である。

i) 三角形 ABC が正三角形となるように z を定めよ。ただし、反時計回りの順に点 A 、点 B 、点 C が並んでいるものとする。

ii) 点 C が $\frac{z-1-2i}{z-5} + \frac{\bar{z}-1+2i}{\bar{z}-5} = 0$ を満たしながら動くとき、 $|z|$ の最大値を求めよ。

解説

(1)

i) 30人から5人を選んだとき、満点を取った学生が含まれていない確率は

$$\frac{{}_{28}C_5}{{}_{30}C_5} = \frac{28 \cdot 27 \cdot 26 \cdot 25 \cdot 24}{30 \cdot 29 \cdot 28 \cdot 27 \cdot 26} = \frac{20}{29}$$

よって、5人選んだとき、少なくとも1人満点である確率 $P(5)$ は

$$P(5) = 1 - \frac{20}{29} = \frac{9}{29}$$

ii) i) と同様に考えて、30人から n 人を選んだとき、満点を取った学生が含まれている確率 $P(n)$ は

$$\begin{aligned} P(n) &= 1 - \frac{{}_{28}C_n}{{}_{30}C_n} \\ &= 1 - \frac{28!}{n!(28-n)!} \times \frac{n!(30-n)!}{30!} \\ &= 1 - \frac{(30-n)(29-n)}{30 \cdot 29} \end{aligned}$$

よって、 $P(n) \geq \frac{1}{2}$ より

$$1 - \frac{(30-n)(29-n)}{30 \cdot 29} \geq \frac{1}{2}$$

$$\therefore \frac{(30-n)(29-n)}{30 \cdot 29} \leq \frac{1}{2}$$

$$\therefore (30-n)(29-n) \leq 435$$

ここで、左辺を $f(n)$ とおくと、 $1 \leq n \leq 28$ で $f(n)$ は単調減少であるので

$$f(8) = 462 \geq 435$$

$$f(9) = 420 \leq 435$$

となるので、 $P(n) \geq \frac{1}{2}$ を満たす最小の n は $n=9$ である。

(2) $\alpha=1+2i$ 、 $\beta=5$ とする。

i) $B(\beta)$ を $A(\alpha)$ の周りに反時計回りに $\frac{\pi}{3}$ 回転した点が $C(z)$ より

$$z = (\beta - \alpha) \left(\cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3} \right) + \alpha$$

$$\therefore z = (4-2i) \left(\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) + 1+2i$$

$$= (3-\sqrt{3}) + (1+2\sqrt{3})i$$

ii) $\frac{z-1-2i}{z-5} + \frac{\bar{z}-1+2i}{\bar{z}-5} = 0$ より

$$\therefore (\bar{z}-5)(z-1-2i) + (z-5)(\bar{z}-1+2i) = 0 \quad (z \neq 5)$$

$$\therefore z\bar{z} - (3-i)z - (3+i)\bar{z} + 5 = 0$$

$$\therefore \{z-(3+i)\} \{\bar{z}-(3-i)\} = 5$$

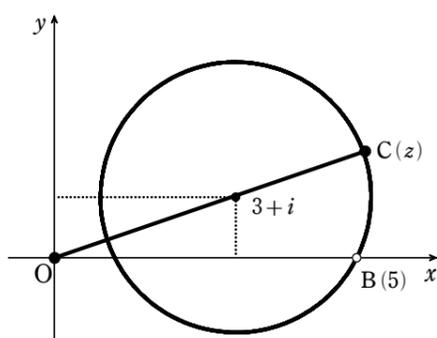
$$\therefore \{z-(3+i)\} \overline{\{z-(3+i)\}} = 5$$

$$\therefore |z-(3+i)| = \sqrt{5}$$

これより、 $C(z)$ は点 $(3+i)$ を中心とする半径 $\sqrt{5}$ の円上を動く。(ただし、 $B(5)$ は除く)

よって、 $|z|$ は原点から $C(z)$ までの距離より、 $|z|$ が最大となるのは、下図のように O と円の中心を結ぶ直線と円が交わる点が $C(z)$ のときである。

よって、 $|z|$ の最大値は $\sqrt{1^2+3^2} + \sqrt{5} = \sqrt{10} + \sqrt{5}$



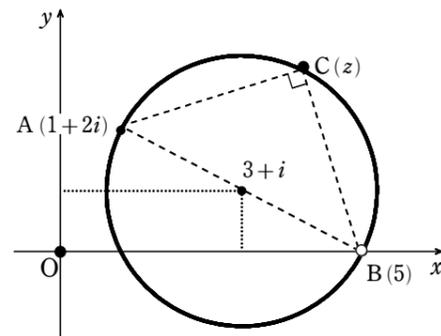
別解 $\frac{z-1-2i}{z-5} + \frac{\bar{z}-1+2i}{\bar{z}-5} = 0$ より

$$\frac{z-1-2i}{z-5} + \overline{\left(\frac{z-1-2i}{z-5} \right)} = 0$$

これより、 $\frac{z-1-2i}{z-5}$ が純虚数 または $z=1+2i$ ($z=\alpha$) となる。

よって、 $\frac{z-1-2i}{z-5} = \frac{z-\alpha}{z-\beta}$ が純虚数より、 $AC \perp BC$ となるので

$C(z)$ は AB を直径とする円周上を動く。(ただし、 $B(5)$ は除く)



以下略

2 O を原点とする座標平面上において、O を極、x 軸の正の方向を始線とする極座標を定め、極方程式 $r = \frac{2}{1 - \cos \theta}$ で表される曲線を C とする。 $0 < \theta < \pi$ とし、極座標が (r, θ) で表される C 上の点を P、点 P における C の接線を ℓ 、 ℓ と x 軸および y 軸との交点をそれぞれ Q、R とするとき、以下の問いに答えよ。

- (1) ℓ の傾きを θ を用いて表せ。
- (2) $\angle OQR$ を θ を用いて表せ。
- (3) $\lim_{\theta \rightarrow +0} \frac{OQ}{OR^2}$ を求めよ。

解説

$$r = \frac{2}{1 - \cos \theta} \text{ で、} 0 < \theta < \pi \text{ より、} r > 0$$

また、O が極より、 $x = r \cos \theta$ 、 $y = r \sin \theta (y \geq 0)$ 、 $r^2 = x^2 + y^2$ となる。

$$r = \frac{2}{1 - \cos \theta} \text{ より}$$

$$r(1 - \cos \theta) = 2$$

$$\therefore r = 2 + r \cos \theta$$

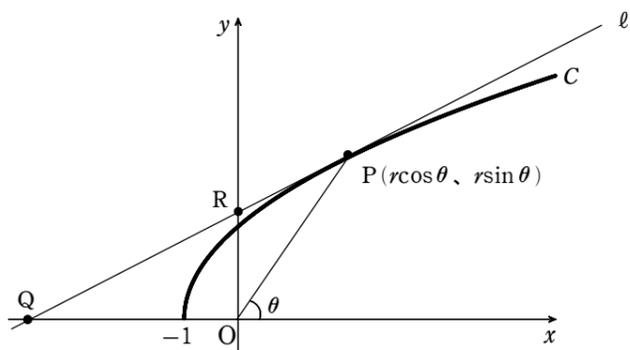
$$\therefore r = 2 + x$$

$$\therefore r^2 = (2 + x)^2 \quad (x > -2)$$

$$\therefore x^2 + y^2 = 4 + 4x + x^2$$

$$\therefore x = \frac{y^2}{4} - 1 \quad (x > -2 \text{ を満たす})$$

よって、図のようになる。



(1) $x = \frac{y^2}{4} - 1$ より

$$dx = \frac{2y}{4} dy$$

$$\therefore \frac{dy}{dx} = \frac{2}{y}$$

P($r \cos \theta$, $r \sin \theta$) における接線の傾きより

$$\begin{aligned} \frac{dy}{dx} &= \frac{2}{r \sin \theta} \\ &= \frac{1 - \cos \theta}{2} \cdot \frac{2}{\sin \theta} \\ &= \frac{1 - \cos \theta}{\sin \theta} \end{aligned}$$

(2) ℓ の傾きが $\frac{1 - \cos \theta}{\sin \theta}$ より

$$\begin{aligned} \frac{1 - \cos \theta}{\sin \theta} &= \frac{2 \sin^2 \frac{\theta}{2}}{2 \sin \frac{\theta}{2} \cos \frac{\theta}{2}} \\ &= \tan \frac{\theta}{2} \end{aligned}$$

よって、 ℓ は x 軸の正方向とのなす角は $\frac{\theta}{2}$ となる。

これより、 $\angle OQR = \frac{\theta}{2}$

(3) $\angle OQR = \frac{\theta}{2}$ 、OP と x 軸の正方向とのなす角は θ より、 $\angle OPQ = \frac{\theta}{2}$

よって、 $\triangle OPQ$ は二等辺三角形となるので、 $OQ = r$

また、 $\triangle OQR$ は直角三角形より、 $OR = r \tan \frac{\theta}{2}$

よって、 $\lim_{\theta \rightarrow +0} \frac{OQ}{OR^2} = \lim_{\theta \rightarrow +0} \frac{r}{r^2 \tan^2 \frac{\theta}{2}}$

$$= \lim_{\theta \rightarrow +0} \frac{1}{r \tan^2 \frac{\theta}{2}}$$

$$= \lim_{\theta \rightarrow +0} \frac{1 - \cos \theta}{2} \cdot \frac{\cos^2 \frac{\theta}{2}}{\sin^2 \frac{\theta}{2}}$$

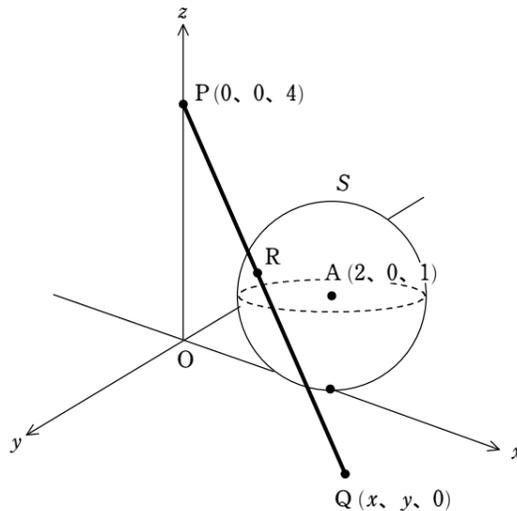
$$= \lim_{\theta \rightarrow +0} \frac{2 \sin^2 \frac{\theta}{2}}{2} \cdot \frac{\cos^2 \frac{\theta}{2}}{\sin^2 \frac{\theta}{2}}$$

$$= \lim_{\theta \rightarrow +0} \cos^2 \frac{\theta}{2} = 1$$

3 O を原点とする座標空間に点 A(2, 0, 1) を中心とする半径 1 の球面を S とする。2 点 P(0, 0, 4)、Q(x, y, 0) を通る直線が S と点 R で接しているとき、以下の問いに答えよ。

- (1) $\angle APR = \theta$ とするとき、 $\cos \theta$ の値を求めよ。また、内積 $\vec{PA} \cdot \vec{PR}$ を求めよ。
- (2) xy 平面上で Q 全体が描く図形の方程式を求めよ。

解説



(1) $\vec{PA} = (2, 0, -3)$ より、 $|\vec{PA}| = \sqrt{2^2 + (-3)^2} = \sqrt{13}$

AR は半径より、 $AR = 1$

よって、 $PR = \sqrt{PA^2 - AR^2}$

$$= \sqrt{13 - 1}$$

$$= 2\sqrt{3}$$

以上より、 $\cos \theta = \frac{PR}{PA}$

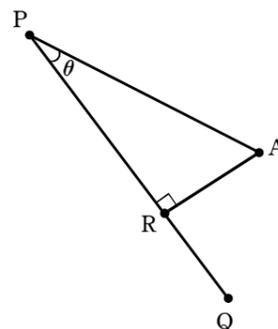
$$= \frac{2\sqrt{3}}{\sqrt{13}}$$

$$= \frac{2\sqrt{39}}{13}$$

また、 $\vec{PA} \cdot \vec{PR} = |\vec{PA}| \cdot |\vec{PR}| \cos \theta$

$$= \sqrt{13} \cdot 2\sqrt{3} \cdot \frac{2\sqrt{39}}{13}$$

$$= 12$$



(2) $\vec{PA} = (2, 0, -3)$ 、 $\vec{PQ} = (x, y, -4)$ で

$\vec{PA} \cdot \vec{PQ} = |\vec{PA}| \cdot |\vec{PQ}| \cos \theta$ より

$$\begin{pmatrix} 2 \\ 0 \\ -3 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} x \\ y \\ -4 \end{pmatrix} = \sqrt{13} \cdot \sqrt{x^2 + y^2 + (-4)^2} \cdot \frac{2\sqrt{39}}{13}$$

$$\therefore x + 6 = \sqrt{3} \cdot \sqrt{x^2 + y^2 + 16}$$

$x \geq -6$ のもとで、2乗して

$$(x + 6)^2 = 3(x^2 + y^2 + 16)$$

$$\therefore 2x^2 + 3y^2 - 12x + 12 = 0$$

$$\therefore 2(x - 3)^2 + 3y^2 = 6$$

$$\therefore \frac{(x - 3)^2}{3} + \frac{y^2}{2} = 1 \quad (x \geq -6 \text{ を満たす})$$

別解 球面 S: $(x - 2)^2 + y^2 + (z - 1)^2 = 1$

Q を (X, Y, 0) とし、直線 PQ を表すと

$$\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \vec{OP} + t \vec{PQ} \quad (t \text{ は実数})$$

$$= \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 4 \end{pmatrix} + t \begin{pmatrix} X \\ Y \\ -4 \end{pmatrix}$$

$$= \begin{pmatrix} tX \\ tY \\ 4 - 4t \end{pmatrix}$$

球面 S と直線 PQ は接するので

$$(tX - 2)^2 + (tY)^2 + (3 - 4t)^2 = 1$$

$$\therefore (X^2 + Y^2 + 16)t^2 - 4(X + 6)t + 12 = 0$$

実数 t がただ一つ存在すればよいので、判別式を D とすると

$$\frac{D}{4} = 4(X + 6)^2 - (X^2 + Y^2 + 16) \cdot 12 = 0$$

$$\therefore (X + 6)^2 - 3(X^2 + Y^2 + 16) = 0$$

$$\therefore 2X^2 + 3Y^2 - 12X + 12 = 0$$

$$\therefore \frac{(X - 3)^2}{3} + \frac{Y^2}{2} = 1$$

よって、求める図形の方程式は $\frac{(x - 3)^2}{3} + \frac{y^2}{2} = 1$

4 n を自然数とする。 $I_n = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \tan^n x dx$ とおくと、以下の問いに答えよ。

- (1) I_1, I_2 を求めよ。
- (2) $I_n < \frac{\pi}{4(n+1)}$ を示せ。
- (3) $\sum_{n=1}^{\infty} \int_0^{\frac{\pi}{4}} (-\tan x)^n (1 - \tan^2 x) dx$ を求めよ。

解説

$$(1) I_1 = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \tan x dx$$

$$= \left[-\log |\cos x| \right]_0^{\frac{\pi}{4}}$$

$$= \frac{1}{2} \log 2$$

$$I_2 = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \tan^2 x dx$$

$$= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left(\frac{1}{\cos^2 x} - 1 \right) dx$$

$$= \left[\tan x - x \right]_0^{\frac{\pi}{4}}$$

$$= 1 - \frac{\pi}{4}$$

(2) $0 \leq x \leq \frac{\pi}{4}$ で、 $y = \tan x$ は下凸のグラフになるので、 $(0, 0)$ と $(\frac{\pi}{4}, 1)$ を結ぶ

直線である $y = \frac{4}{\pi}x$ と $y = \tan x$ のグラフの上下関係は、 $0 \leq x \leq \frac{\pi}{4}$ において、

$\tan x \leq \frac{4}{\pi}x$ となるので、 $0 \leq \tan^n x \leq \left(\frac{4}{\pi}x\right)^n$ が成り立つ。

$$\text{よって、 } I_n = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \tan^n x dx < \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left(\frac{4}{\pi}x\right)^n dx$$

$$= \left(\frac{4}{\pi}\right)^n \left[\frac{1}{n+1} x^{n+1} \right]_0^{\frac{\pi}{4}}$$

$$= \left(\frac{4}{\pi}\right)^n \cdot \frac{1}{n+1} \cdot \left(\frac{\pi}{4}\right)^{n+1}$$

$$= \frac{\pi}{4(n+1)}$$

したがって、 $(0 <) I_n < \frac{\pi}{4(n+1)}$

$$(3) \sum_{n=1}^{\infty} \int_0^{\frac{\pi}{4}} (-\tan x)^n (1 - \tan^2 x) dx = \sum_{n=1}^{\infty} (-1)^n (\tan^n x - \tan^{n+2} x) dx$$

$$= \sum_{n=1}^{\infty} (-1)^n (I_n - I_{n+2})$$

$$\text{ここで、 } \sum_{k=1}^n (-1)^k (I_k - I_{k+2}) = -(I_1 - I_3) + (I_2 - I_4) - (I_3 - I_5) + \dots$$

$$\dots + (-1)^{n-1} (I_{n-1} - I_n) + (-1)^n (I_n - I_{n+2})$$

$$= -I_1 + I_2 + (-1)^{n-1} (-I_n) + (-1)^n (-I_{n+2})$$

となる。(2) より、 $0 < I_n < \frac{\pi}{4(n+1)}$ となるので、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\pi}{4(n+1)} = 0 \text{ より、はさみうちの原理から } \lim_{n \rightarrow \infty} I_n = 0 \text{ となる。}$$

$$\text{よって、 } \sum_{n=1}^{\infty} \int_0^{\frac{\pi}{4}} (-\tan x)^n (1 - \tan^2 x) dx = -I_1 + I_2$$

$$= -\frac{1}{2} \log 2 + 1 - \frac{\pi}{4}$$